

CBCCC訪独ミッションおよび訪中の模様

2017年12月12日

二宮 雅也

CBCCC会長

1. 日程・訪問先

- 11月20日(月)～24日(金)
- フランクフルト、ベルリン、ミュンヘン



2. 参加者

- 二宮団長はじめ20名(参加企業数 13社)

3. 訪問先

- 政府・関係機関
- 企業・経済団体
- 金融・ESG投資関係者
- 研究機関



1. ドイツの責任投資は長年の歴史を有する。
ESG投資も年々拡大
2. ドイツ政府は、「ビジネスと人権に関する指導原則」(2011年採択)を受けて、NAP(国別行動計画)を策定

従業員500人以上の企業に対し、人権
デュー・ディリジェンスの実施と報告を要請

2020年までに対象企業の半数が実施できなかった場合は、法制化を検討

3. ドイツ企業の間でもSDGsへの関心は高く、先進企業では、SDGsを自社の事業活動に統合して取り組む
4. 「Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成」、企業行動憲章の改定につき、大きな関心と評価を得る
5. わが国のCSRの実態や日本企業のCSRへの取り組み事例にも発信、理解を得る

1. 日程

11月30日(木)～12月1日(金)

2. 参加者

二宮会長はじめ10名(参加企業数 3社)

3. 訪問先

北京

- 11月30日「日中CSR円卓会議」
- 12月1日「中国CSR国際シンポジウム」



1. 中国におけるSDGs達成に向けた動き

- 中国政府、企業、各種組織がSDGs達成に向けて取り組む。
- 理念は整備されているが、企業活動の具体的な落とし込みが不十分、行動を促すことが今後の課題。
- 役員やCSR担当者のみでなく、現場社員や中小企業、一般市民への普及・啓発活動も必要。

<GoldenBee2030グローバル・イニシアチブ>



GoldenBeeが作成したロードマップのポイント

- 共通のビジョン(SDGsの達成)、責任ある競争、的確な実践、国境を越えた協力、価値共有の5つのキーワードに基づき、参加者は対応する目標を決め、取り組みのロードマップを作成し社会に公表する。
- 日本企業1社を含む21社、2組織がパートナーとして参加

2015年9月
習近平国家主席による国
連演説

↓
2016年9月
中国政府「持続可能な発展
アジェンダのための2030年
国家プログラム」

2. 中国におけるCSRの動向

- 政府の関連政策（一帯一路構想等）の下で、企業の発展と自然環境保護、労働者への配慮等との調和を図っている。
- 外資企業が中国国内でCSRを実践する一方、一帯一路構想のもとで中国企業も進出先でCSRを実践することで、グローバル基準を踏まえたCSRが進む。

3. 総括

- ここ10年間で中国企業のCSRへの取り組みは大きく進展した。
- 日本と同様、中国でも政府・企業のSDGsへの関心は高い。
- ビジョンや戦略にCSRを統合することの必要性は日中両国で課題と認識されている。お互いに学ぶところは多い。

- ✓ 引き続き、各国の政府や企業、NGO・NPO等と対話を継続していくことが重要。特に、多くの企業が参画することが望ましい。
- ✓ 今後、日本、欧州、中国が連携し、SDGsのテーマごとに連携できる機会を探りたい。